

2026年度 資料館これからの予定表

- 7/1～7/27 スキマ展「昭和の海水浴場」
- 7/25 体験講座「海辺の標本箱をつくる」
- 7/29～8/31 テーマ展「上花畔1遺跡」
- 8/28 エクスカーション事業
共催：石狩市郷土研究会
- 9/2～9/7 スキマ展「石狩の渡船」
- 9/18～11/3 テーマ展「紅葉山33号遺跡の石器と
漆塗り弓―続縄文文化前半期の道具
と祈り」
- 10/18 体験講座「漆塗り弓の文様でコースター
をつくる」
- 10/28～11/9 サテライト展「渋井一夫石狩町観光
ポスターパネル展」
- 10月 野外講座「石狩ビーチコーマーズ／
秋の海辺の漂着物」
- 10月 トークイベント「ウミベオロジー／
石狩海辺学2026」
- 11/11～12/25 スキマ展「渋井一夫の観光ポスター」
- 1/30・2/6 連続講座「石狩大学博物館部」
- 1～3月 テーマ展「資料館のお宝2027」

展示・講座の詳細については、資料館HPをご覧ください。

Facebook、YouTube更新中

資料館のまわりでおきた事件、新たな発見、展示や
講座の舞台裏など、紹介しています！
たま～に覗いてみてください。

※YouTubeは不定期更新です。



資料館TOP



Facebook



YouTube

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分

休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始

入館料 大人：300円、中学生以下：無料
団体料金240円（15名以上）

交通 中央バス石狩線は廃止になりました。
代替交通をご利用ください。（要予約）



いつも
本町花川線

Pick up

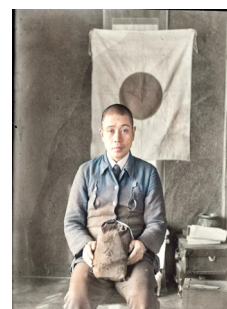
写真についても改めてご紹介します。こちらは2018年か
ら2019年にかけて寄贈された「ガラス乾板」から作成した
ものです。

ガラス乾板は写真フィルムが普及する前の明治時代か
ら昭和時代前半頃まで使われていました。本体のガラス
板に塗布された感光材が、光に反応して絵となります。
絵の記録され方にもポジ型・ネガ型があり、この乾板はネ
ガ型で白黒反転状態になっています。

実際に写真として見る際は、白黒反転状態だと何の
写真かわからないため、現像したり、データを作成したりす
る必要があります。今回は、スキャンデータを反転加工し
たものにカラー化ソフトで色をつけました。

色の判断は自動でされているため、服などの淡い色、
海や人間の影などは一部そのままのモノクロ・セピアになっ
ていたり、青っぽく着色されたりしています。抽出できる情
報量等により精度が変わります。

また、今回は海外製ソフトを使用したため、少し色彩
が日本のものとは違ったり、国旗などが反映されなかった
りと課題もあります。



出征時の写真
(背後に日の丸の国旗)



花畔消防組

まだまだ完全再現とはいきませんが、写真そのものが
貴重な時代のため、当時の様子をつかむためと考えると
効果的な方法かもしれません。

いしかり砂丘の風資料館だより

エスチュアリ No.76

2026(令和8)年7月15日 発行

いしかり砂丘の風資料館

(石狩市教育委員会文化財課)

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

TEL:0133-62-3711 FAX:0133-77-5011

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

<https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>

Estuary 076

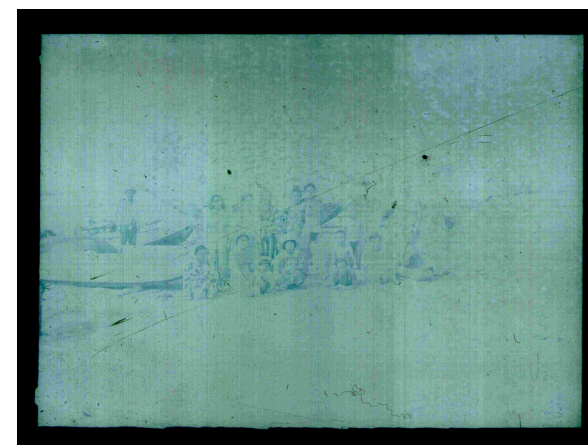
いしかり砂丘の風資料館だより



石狩の夏はここで決まり！



ガラス乾板をスキャンしたもの
(ネガ・白黒反転状態のまま)



ポジ(通常の白黒)状態に修正したもの
※どちらも陰影を見えやすくするために加工しています。

ガラス乾板については裏で触れています。

石狩市は石狩管内で唯一海岸線を持つまちで、夏には海
水浴場も開設されます。「海水浴」というと、現在では多様な
マリネリジャーも楽しまれています。元は保養・治療等を目的
として西洋から流入した文化といわれています。北海道でも古
くは明治時代から海水浴が行われてきました。

表紙の写真は推測になりますが、撮影者の活動時期から
昭和30～40年頃に花畔の海水浴場(現在の十線浜～三線
浜)のあたりで撮影されたものと考えられます。

各人の服装に注目してみましょう。女性は和装が2人、洋装
(ワンピース)の女性が5人います。男性は洋装が4人(羽織ってい
る人物も含む)と水着が8人です。男性の多くはふんどし型
の水着を着用しており、中央でうつぶせになっている男性は肩
ひもがある水着に見えます。

男性はもとはふんどし等で、明治・大正以降にワンピース型、
そして昭和に入りパンツ型が流行・定着していきます。またこの
写真には見えませんが、女性用のビキニスタイルが日本に入っ
てきたのは1960年代(昭和30～40年代以降)といわれています。
それまではメリヤス編みの海水着等が着用されていました。ビキ
ニスタイルの水着もその露出の多さから、まずはワンピースタイプ
から流行していきました。

昭和の30～40年代の海辺の写真からは、海そのものだけで
はなく、そうしたファッションスタイルの変化も見られ、大変興味
深いものです。

(坂本 恵衣)

7/1～7/27 砂丘の風資料館にて、
スキマ展「昭和の海水浴場」開催中！

1 海から遠い、“海浜”植物

初夏の石狩海岸。浜のすぐ背後の海岸砂丘には、赤紫色の花がたくさん咲いています①。ハマナス。海浜植物の代表です。

しかし、海岸から5 kmも内陸に入った、札幌市との境界に近い紅葉山^{もみじやま}砂丘の林の中にも、人知れずハマナスが咲いているところがあります②。海浜植物が、なぜこんな内陸に？

内陸ハマナスは、ここだけじゃありません。さらに40km内陸、新千歳空港にも近い長沼町にも、ハマナスが咲いている所があります③。実はこれらの場所は、今でこそ海から遠く離れていますが、かつては海岸だったのです。

海水面の上昇や地殻の沈降などによって、海が陸地に入り込んでくる現象を「海進」と呼びます。今からおよそ1万前から進行してきた海進は、約6000年前、ピークに達しました。標高の低い生振^{おやふる}や花川など現在の石狩市の南部や、札幌市の北部（JR函館本線より北側）は、水没しました。海はさらに内陸、江別市や北広島市、長沼町まで入り込みました。当時の石狩平野は、現在の東京湾や伊勢湾を思わせるような、広い内湾になったのです。「古」石狩湾と呼ばれています④⑤。

紅葉山砂丘や長沼の内陸ハマナスは、6000年前、そこが古石狩湾の海辺だった時代の名残だろうと考えられています。



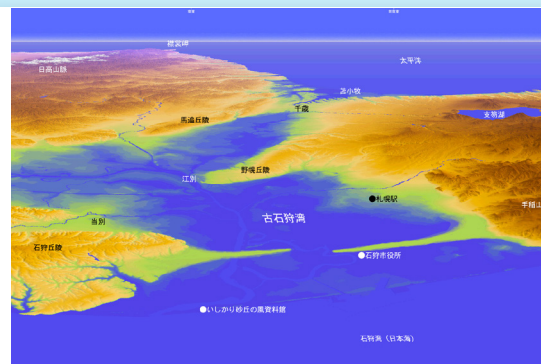
①現在の石狩海岸のハマナス



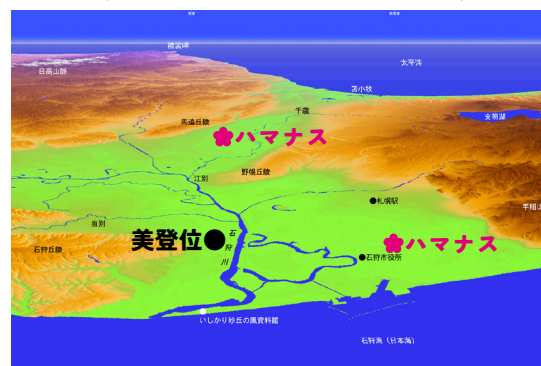
②海岸から5 km内陸、紅葉山砂丘のハマナス



③長沼町の内陸ハマナス



④今から約6000年前の石狩平野（石狩湾上空から見下ろしたイメージ図）



⑤現在の石狩平野（上と同じ位置）

ハマナス、クジラと縄文海進

2 平野に入り込む海

海が入り込んでいたのは、石狩平野だけではなく。同じころ、関東平野、濃尾平野、大阪平野など、日本各地の海沿いの平野が水没していました。当時の日本は縄文時代。内陸の遺跡の貝塚などからも海辺の証拠が見つかることから、この海進のことを「縄文海進」と呼んでいます。関東平野では「有楽町海進」と呼ばれることもあります。

「縄文」「有楽町」という名前ですが、その海進の原因は、実は日本から遠く離れた北アメリカや北ヨーロッパにありました。今からおよそ10万年前～2万年前の「氷期」と呼ばれる寒冷な時代、カナダや北欧周辺の大陸は、厚さ数千mの巨大な氷河「大陸氷床」に覆われていました。しかし1万1000年前、気候の温暖化が急速に進み、それら北半球の氷床が、一気に融け始めました。莫大な量の融け水はすべて海に流れ込み、地球の海水面も急上昇したのです。

それが、縄文海進の直接の原因です。海進は地球全体の海水面の上昇のほか、ローカルな地殻の上下運動も関係するため、世界各地で変化の幅や時代が違いますが、日本周辺での海進のピークは、約6000年前。海水準は現在よりも約3 m高かったと考えられています。



3 足下に眠る証拠は“骨”

札幌やその周囲に広がる街を見ると、ここが海だったなんて信じられないかもしれません。でもその証拠は、内陸ハマナスだけではなく。地面の下に、たくさん埋まっているのです。

石狩市南部や札幌市北部の低地では、大きな工事などで地面を重機で何mも深く掘り下げたとき、まるで木の幹のような大きな骨が、ごろん、と出てくることがあります。クジラの骨です。長さ1～2 mの肋骨や、まるで木の切り株のような椎骨（背骨の1つ1つの骨）などです⑥。

このうちの1点、石狩市美登位^{びどうき}で掘り出された肋骨を放射性炭素年代測定にかけたところ、今から5800年前のクジラであることがわかりました。他の骨も、掘り出された位置を考えると、おおよそ似たような年代、6000年前前後のものと考えられます。

クジラはもちろん、海の生き物。つまりこの骨は、石狩平野が当時、クジラが泳ぐような海だったことを示す、明らかな証拠なのです。



⑥石狩の地下から掘り出されたクジラの骨。手前から右奥の長い骨はセミクジラ科の前上顎骨。ヒトの頭骨と大きさを比べてみよう。（砂丘の風資料館の展示）

4 石狩にもいた!? セミクジラ

石狩の地下から見つかった骨は、ほとんどは肋骨と椎骨。クジラの種まで特定するのは難しいのですが、その大きさから、いずれも体長10mを超えるようなヒゲクジラの仲間のものだと考えられます。

その中に1つ、ちょっと変わった形の骨があります。長さ2.4mで弓なりに湾曲したもの。これは、前上顎骨^{ぜんじょうがくこつ}という頭の骨の一部です。上顎の中央あたりで、人間でいうと、ちょうど“鼻の下”。片端は折れてなくなっていますが、その大きさや、湾曲した形から、セミクジラ科（セミクジラやホッキョククジラ）のものだと考えられます。

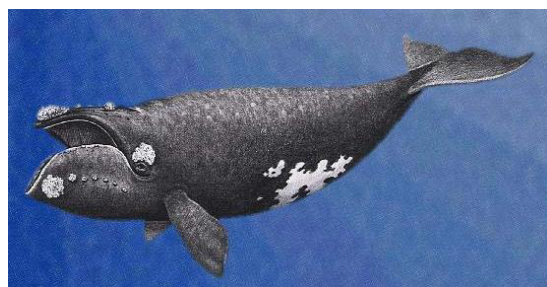
セミクジラは体長15mに達する、ヒゲクジラ類の1種⑦⑧。かつては日本の沿岸でもよく見られました。獲りやすいことから、捕鯨の格好の対象となり⑨、世界各国による近代捕鯨の結果、セミクジラの個体数は激減。現在、地球全体で生息数は100～1000頭くらいだと見積もられています。日本近海でも今はめったに見られなくなりました。石狩湾周辺では少なくとも最近20年間、目撃やストランディング（海岸への座礁や漂着、混獲など）の記録はありません。

かつて同じように札幌市の地下から掘り出された縄文海進期のクジラの椎骨が、つい最近、セミクジラのものと同定された、という研究結果が発表されました（Tanaka, 2026）。今は世界に数百頭しかいない、セミクジラ。しかし先史時代、石狩や札幌を覆っていた海では、普通に泳いでいたのかもしれない。

石狩平野の地下からは、クジラの骨のほかにも、海生の貝や植物プランクトンの殻の化石が、たくさん見つかります。地上では内陸ハマナス、地下では海の生物の化石。縄文海進の証拠は、あなたの家のまわりや足下に、たくさん眠っているのです。

（志賀 健司）

（Tanaka, Y., 2026. Right whale remains from the Holocene (Quaternary) of Sapporo, Hokkaido, northern Japan. Aquatic Mammals, 52(1): 79-83.）



⑦体長約15mに達するセミクジラ（図：米海洋大気庁）



⑧根室市に漂着したセミクジラ（2018年、写真：根室市歴史と自然の資料館）



⑨江戸時代の捕鯨の様子。獲物はセミクジラに見える。（「鯨史稿 6巻」国立国会図書館デジタルコレクション）